



プロジェクトの動き

先生の先生の育成、 みっちり4日間.....2

『読書推進ニュースレター デックノーイラオ 10号』より.....4

ラオスのこども スタディツアー09.....5

国内の活動/イベント.....6

国内の活動/事務局より.....7

寄付者・協力者のみなさん .....8

## タートルアン祭り で朗読を披露

ラオス最大のお祭り、タートルアン祭りが、11月(太陰暦12月)に行われました。

溢れかえらんばかりに人が集まる中、当会が支援する子ども教育開発センター(CEC)のシンサイグループが古典の叙事詩を朗読。

練習を重ねた上の自信に満ちたパフォーマンスに祭りに訪れた人々が歩みをとめて聞き入りました。

シンサイグループについては、p4をご覧ください。

特定非営利活動法人ラオスのこどもは、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていくために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの出版」「図書室」「集い楽しみ学べる場」などの支援を行っています。

# 先生の先生の育成、みっちり4日間

——国語（ラオス語）の授業を楽しくおもしろく

古都ルアンパバンで2009年10月15～18日、教員養成校のラオス語教員（将来の小学校教員にラオス語の教授法を指導する）を対象に「ラオス語教授法改善セミナー」を開催しました。

当会は2008年から教員養成校でのラオス語指導者育成事業（日本国際協力財団によるご支援）を実施しています。今回は北部の3県（シェンクワン県、ルアンパバン県、ルアンナムター県）から16名の先生が参加し、少人数のグループで4日間みっちり学びました。大学の文学部または教員養成校を卒業すれば教員養成校でラオス語の指導ができるので、まだ女子大生にも見える若い先生も参加していました。

## ●「子どもに考えさせ、話させましょう」

従来からラオスの授業は教科書が行き渡らない、先生が教え方を身につけていないなどの理由で、先生は教科書の内容を黒板に写し、それを生徒に写さ

せ、暗唱させるというのが一般的です。

本セミナーのねらいは小学校のラオス語の授業を面白く楽しいものにする。先生に絵本や本を副読本として授業に取り入れるテクニックを伝え、子どもたちが本に親しむ機会を増やすこと。また、先生が多様なテクニックを取り入れ、子どもの思考・発言を促し、子ども主体の授業づくりができるようになることでした。「言葉を学ぶ時間なのだから、子どもにたくさん話させることが大事。先生ばかりが話したり、答えを誘導するような質問を与えるのではなく、子どもに考えさせ、話させましょう」と、セミナー中、講師は繰り返しました。

## 「ラオス語教授法改善セミナー」の展開

### <1日～2日目>

当会出版の絵本を教材に参加型の研修を通して多様なテクニックを指導。受講者はその後の模擬授業のために、習いたてのテクニックを取り入れてレッスンプランを作成。

テクニックの一例：

- 1) お話の中に難しい単語が出てきたときの教え方・学び方
- 2) 物語の続編を考えさせる
- 3) より適当だと思われる題名や主人公の名前を考えさせる
- 4) 生徒の読解力を促進し、確認する方法
- 5) 物語で扱われているテーマを自分たちの生活に当てはめたり、他の科目の学習を取り入れながら授

業を行う（総合的な学びのためのワークショップ手法）

### <3日目>

ルアンパバン教員養成校が提携している小学校に行き、実際に自分たちで作成したレッスンプランに基づき4年生に模擬授業を実施。土曜日にぶつかってしまい、家の手伝いをしなくてはいけない女子が若干名欠席したが、ほとんどの児童が出席。子どもたちが自由に想像力を働かせることに慣れていないのか、先生がそうさせることになれていないのか、続編や題名を考えさせるのには反応が薄かった。

### <4日目>

模擬授業を行ってみてそれぞれの課題や反省点を話し合い、レッスンプランの改善案を作り、発表。



じっくり絵本を読み込む教員養成校の教員たち



実だけでなく、葉、茎、花と豊かな教材となるバナナ



セミナーで使用・寄贈した4種類の絵本。上から「ぼくはどこへいくの?」「穴に落ちたヒヨコ」「ソボンの優しさ」「少女ヌアンドーム」

今回の講習内容は、講師を務めたドアンドゥアン氏が参加した Cambridge Education のプロジェクト “Teacher Training Enhancement and Status of Teachers (TTEST)” をもとに、理論中心の TTEST を今回のワークショップのために現場での実践に適応するプログラムとして組み立てたものです。

☆ラオスのこどものホームページ (<http://deknoylao.org/>) の「トピックとお知らせ」もあわせてご参照ください。



### ●生徒の喜び、先生の喜び

総合的な学びのためのワークショップ手法を使用した模擬授業では、子どもたちは絵本『ぼくはどこへいくの?』に登場したバナナの木と、自分たちの食生活や文化との深い関わりを再認識しました。自分にとって身近なことを考えれば良いので、生徒の参加も積極的になります。

「先生、先生!」と人差し指を立てて手を挙げ、発言を求める子どもたちの声が響き、先生が「意見を黒板に書いてごらん」というと、黒板に衝突せんばかりの勢いで走ってくる子どもたちがいました。いつもと違う先生を前に最初は緊張していた子どもたちの顔も、自信に満ちていました。

受講者からは「この手法は中高生を対象にも使うことができる。子どもたちが楽しんでるので教える側も楽しく、疲れを忘れた」といった声も聞かれました。☆ラオスのこどものホームページ (<http://deknoylao.org/>) の <スタッフブログ> 「バナナの使い道」もご参照ください。



子どもたちにとって楽しい授業となった

### ●面白い授業作りのハードル

ふだんは大人相手に教えているからか、子どもへの話しかけ方から学び直して欲しい先生もいます。子どもの発言を促すどころか、威圧的に命令口調で話し続ける先生が多いことにびっくりします。また、子どもに考えさせるためには大人も辛抱が必要で、ラオスの先生にとっても難しいようでした。生徒に「はい」か「いいえ」で声をそろえて答えさせるような質問の型から抜けられない先生がたくさんいます。

模擬授業の反省会では、先生たちは「答えが、はい/いいえではない問いかけを投げかけることが大事」と口をそろえて言っていました。先生が「それはどうやって作るの?」と講師が問かけると、反応は無し。子どもに考えさせる問いかけは、その場ですぐに思いつくものではないから先生は教材をよく読み質問を考えたりする準備が必要、というアドバイスがありました。

### ●横たわる課題

このように、どんな指導を念入りにしていく必要があるのか、模擬授業を参観してわかってきました。

しかし、当会の活動だけでは解決できない課題もあります。教員にとって、より面白い授業をするための大きな課題は、教員をやっているでも食べていけないという現実ではないかと思えます。セミナーに参加していた教員の多くも、セミナーが終わるや否や、家で作ってきたお菓子を市場に売りに行ったり、時給の良い夜間の特別学校での授業に直行していました。教員養成校の先生は小学校や中学・高校の先生よりも学歴があるので収入は良いですが、それでも複数の仕事を掛け持ちしている教員は珍しくありません。「ラオスでは、食べていくことができないから、優秀な人は教員にはなりたがらない。教員をやりたいとやっている人が少ないのがラオスの教育現場の現実」と、ラオス事務所の代表は残念そうに言います。

☆ラオスのこどものホームページ (<http://deknoylao.org/>) の <スタッフブログ> 「昼の顔、夜の顔」もご参照ください。

### ●リーダーたちに願いを込めて本を寄贈

本セミナーの参加者が教員養成校の学生や同僚に新しく学んだテクニックを指導してくれることを期待して、今回のセミナーで使用した当会出版の絵本4種類各30冊を3県の教員養成校に贈呈しました。



文章にまとめる作業は容易に進まず。左はセミナー講師を務めたドアンデュアン氏。

### ●2010年は南部でセミナー開催

11月初旬には、ヴィエンチャン都にて昨年のセミナーに積極的に参加した教員を対象に、教員養成校で使用するマニュアル作成ワークショップを行いました。実践で直面した課題や、その改善策を交え、習ったテクニックの実践例を書く作業が中心でした。

文章を書くことに慣れていない多くの参加者が苦戦し、講師は頭を抱えていました。理論ばかりの教本ではなく、自分たちの実践をもとに作るこの教授法マニュアルは、現場で活用しやすいものになるのではないかと期待を込め、これからラオス事務所のスタッフは推敲、編集の作業に取り組んでいきます。

2010年にはサワナケート県で南部の教員養成校の教員にラオス語教授法改善セミナーを行います。

(秋元 波/ラオス駐在スタッフ)

# 『読書推進ニュースレター デックノーイラオ 10号』より

ラオス事務所が編集・発行するニュースレターから、当会が支援するヴィエンチャン子ども教育開発センター(CEC)の古典文学『シンサイ』を朗読する子どもたち「シンサイグループ」の活動報告を紹介します。

## メコン河兩岸の子どもたちによる「シンサイ」キャンプ報告

ヴィエンチャン都 CEC のシンサイグループ(ランサーン遺産継承グループ)・ポンケオヴィタニヤ学校・まんが作成グループの子どもたち合計 24 名は 3 月 26 日、その翌日から 2 日間行われるキャンプに参加するため、タイのコンケン県サワティ村のサイシー寺に向かい、サワティ学校の子どもたち 30 名に会いました。

キャンプ初日、メコン河兩岸から集まった子どもたちは、まずお互いを知り合うことからはじめ、みんなでルールとスローガンを決めました。そしてグループに分かれ、それぞれグループのシンボルを作りました。

お昼になって、コンケン県のタワッサイ・ルンロムシリ副知事が参列して開会式が開催されました。午後はサイシー寺のパラクー・ブンサニヤコーン住職から日々の生活についての戒律の説法を聞きました。その中で今回のキャンプの意義や地域の文化を守る事の大切さも語られました。

2 日目はグループに分かれ、CEC のダラ



ラオスとタイの子どもたちが共同で描きあげた絵



CEC 講師(右)がタイの子どもに読み方を指導

朗読、同じく CEC のプー先生の絵画教室、コンケン大学のニョード先生の演劇教室、そしてコンケンのモーラム(伝統音楽の歌い手)によるラム(歌)の中から、子どもたちは好きな活動に参加しました。

今回のキャンプはメコン河兩岸に住む 15 歳以下の子どもたち対象の、2泊3日の初めてのキャンプとなりました。子どもたちは、文化の基本であり国の文化遺産ともいえるすばらしい『シンサイ』文学から美徳を学びました。

ナックカヴィー・プラマイ氏がつくったキャンプの歌の歌詞から：

「サワティ村のサイシー寺でのある日、シンサイキャンプが美徳の精神を新しい世代につないでいく」

今回のシンサイキャンプはラオスの CEC、タイのコンケン県とコンケン大学が協力して開催しました。予算はコンケン県とラオスの DATA COM、SCC、M-Point Mart、ラオスのこどもが提供しました。

(スックパンサー/ラオス事務所スタッフ)

### 『読書推進ニュースレター 10 号』

(そのほかの主な内容)

- ◆古典文学『シンサイ』の漫画
- ◆マホソット博士「とんち だれの車」(ブッダが前世に修行していたときに教え導いた説話を集めた物語)



- ◆外国の民話/がまん強いアリ
- ◆読者からの投稿/短編「走る水牛」/詩「田んぼの縁にある私の家」
- ◆地球を救うために子どもたちができること
- ◆「ラオスのこども」活動報告/「子どもの日」
- ◆保護者のみなさんへ/子どもの発達について

### 【CECのシンサイグループについて】

シンサイは約 400 年前に書かれたといわれる仏教文学です。ラオスのメコン川対岸のタイ東北部(イサーン)は、かつてラオスがフランスによって植民地支配が行われる以前はランサーン王国(今日のラオス)のもとにあり、シンサイはこの地域の文化と深く結びついています。そうしたことから、現在、コンケン県にも「シンサイグループ」があります。

シンサイは現代語にされているとはいえ、子どもたちにとってその詩を理解することは簡単ではありません。CEC で 3 年ほど前から子どもたちに朗読の指導をしている講師のダラヴォン・カンラニヤ(通称ヴィッキー)さんは「詩の内容が理解できて初めて心のこもった朗読ができる」と、内容を丁寧に説明し、子どもたちはそれを理解しながら詩を覚えていきます。

ラオスが持つ豊かな文学を子どもたちに継承し、同時に子どもたちの表現活動としてもとても有意義です。朗読だけでなく、演劇にしたり、ラップミュージックにあわせて歌ったり躍ったりといろいろな形で表現を広げています。

当会は、支援者や一般の方から希望者を募り、9月8日から6日間の日程でスタディツアーを実施。6名と小規模でしたが、会が図書室を支援している小学校などを訪問し、子どもや先生たちと交流しました。

●生まれた曜日の仏様（ワットシーサケット）

ツアーの一行が最初に訪れたのは、ヴィエンチャンを代表する寺院の一つ、ワットシーサケット。ガイド氏が曜日ごとの仏様について教えてくれました。

日：手を下向きに合わせている。  
月：掌を前に向けている。火：涅槃像。水：托鉢。木：座像。金：胸に手。土：頭に7匹の蛇。その曜日に生まれた人を守ってくれるそうです。ラオスの人々と仏教の結びつきの深さを感じさせてくれました。



に触れることはほとんどありませんでしたが、当会ダラー所長が発掘プロジェクトに携わり、研究を進めてきました。

●みんなで『大きなかぶ』（ジョンペット小学校）

当会が図書室を支援する小学校。子どもたちは当会ラオス人スタッフといっしょに『大きなかぶ』を楽しそうに引っこ抜きます。お話に親しむことは本に親しむ大切な第一歩です。



●ようこそ（ラオスのこども事務所）

会の事務所の1階はだれでも利用できる図書室、2階が事務室です。一行はここでダラー所長からラオスの教育状況と当会の図書普及活動について説明を受けました。



●子どもたちに大切なことは（CEC子ども教育開発センター）

子どもたちの元気な歌に誘われ、一行も日本の歌をラオス語で（カタカナ読みです）披露しました。子どもたちは、へんだなと心の中で思ったことでしょうが、しっかり聴いてくれました。CEC子ども教育開発センターは音楽、図画工作のほか古典文学をポップ仕立てで朗読するプログラムなどを通して子どもたちの豊かな発達をめざす児童館型の施設です。



CECのあるスタッフは「以前、学校の教員をしていたときは生徒が成績を上げることばかりに注意を払っていました。今は、子どもが自分を表現できること、友だちと仲良くできること、率先して何かができるようになることが大切であると思います」と話してくれました。

●椰子の葉に刻まれた古い文書（国立図書館）

ラオス国立図書館には、椰子の葉に鉄筆で文字を刻み込んで墨を入れた古い文書（バイラーン）が保存されています。長く寺院に収蔵されたままで人の目



＜ツアーに参加して＞ 小学校の先生をはじめ貴重な話が聞けました

私が参加した目的は、ラオスでフィールドワークをして自分の研究に生かしたいという思いからでした。個人旅行では聞くことが難しいラオスの小学校の先生やラオス事務所スタッフの貴重なお話が聞けてとてもいい経験ができました。

遠い国ラオスで日本語の歌がうたわれていたり、日本の絵本が読まれていたり、それは不思議なことでもあり、嬉しいことでもありました。日本のNGOがラオスの人々にどれだけ必

要とされているかという存在意義も感じる事ができ、このような活動がもっと日本人の耳に届くべきなのではないかとも強く感じました。

フィールドワークと言いつつ、実際はラオスのおいしいものを食べたり、観光をしたり、マッサージに行ったりと満喫して帰ってきました。ラオスの人々も親切でとてもよかったです！ありがとうございました。（伊藤佳奈子/学生インターン）

## 国内の活動・イベント

2009年7月～10月

### 箕面手づくり紙芝居コンクールで受賞

応募に先立って当会で開催した紙芝居ワークショップに24名の子どもが参加。そのうちの6名がコンクールに応募し、みごとソムペット・ゲオウォンサイくんの「小さな毛虫、葉っぱを探して」が特別賞大阪国際児童文学館賞を受賞しました。日本語への翻訳、審査のためのビデオ実演、公開実演など数多くの方に協力をいただきました。



で事業評価会議を行い、学校への図書配付後の利用活性化などについて話し合いました。



続いて支援者の方への報告会を開き、「教科書が行き渡らないのはなぜ?」「落第や中退した子はどうなる?」「学校の先生が本になじんでいないのは意外。新聞も読まない?」など質問が相次ぎ、丸1日かけた会議は大変有意義なものとなりました。

## イベント

### ●「ラオス語絵本をつくってラオスのこどもたちに送ろう!」

7/4 沖電気工業株式会社本社

日本の絵本にラオス語訳を貼り付ける活動を2000年から開始。今年で10回目を迎え、多くの社員、家族の方が参加し、できあがった絵本は過去最高の71冊。10年間で合計539冊にのぼります。



### ●ボランティア体験学習

7/10 田園調布雙葉中学校

学習院女子大学開発教育チームと当会でワークショップとラオス語絵本貼り体験のプログラムを実施。ワークショップでは活発な意見が飛び交い、ロールプレイは大盛り上がりとなりました。「中学校に入り2度目のボランティアだったが、1年生の時とはひと味違う体験ができ、全く知らなかったラオスのことを習得できた」とお礼の手紙が届きました。



### ●第4次中期計画中間評価会議&ラオス事務所スタッフ報告会

7/19 ライフコミュニティ西馬込

ラオス事務所コーディネーターのスラピーと東京事務所メンバー

### ●麻布十番納涼まつり

8/21～23 一の橋親水公園国際バザール会場

ボランティアとスタッフ53名が力を合わせ、3日間で「ラオス風ココナツカレー」1,540食、「ハーブチキン」450食、デザート「ナムワーン」1,021食、マンゴージュース727杯を販売。調理担当も販売担当も休む暇なく汗を流し、最終日は完売すると思わず拍手と歓声も!「しばらくカレーは見たくない!」という声も出ましたが、大盛況のうちに終わることができ、大変感謝しています。



### ●富士ゼロックス端数倶楽部 ラオスイベント

9/5 富士ゼロックス(株) 六本木ティーキューブ

ラオスや当会の活動を紹介するイベントが今年も開催され、ラオス語絵本貼り体験に加え、ラオス語を使った非識字体験、「文字が読めないってどういうこと?」を実施。文字が読めなければ、ときには生命にかかわることを簡単なゲームを通して体感していただきました。



### ●2009年度(第7期)通常総会

9/19 ライフコミュニティ西馬込

活動会員39名(書面評決者11名、委任状4名含む)の参加のもと、通常総会を開催しました。ラオス社会が刻々と変化する中で「現場力」の強化をめざしてきた第7期の事業報告、会

計報告が行われ、承認されました。理事会により役員が選任され、理事、監事が承認されました。続いて2009年度の事業計画・収支予算の報告を行い、終了後、交流会を行いました。



### ●グローバルフェスタ JAPAN2009

10/3・4 日比谷公園  
国内最大級の国際協力のイベント「グローバルフェスタ」で当会は、活動紹介と物販、ラオス語絵本貼り体験プログラムを実施。小学生の来場で急遽、紙芝居『これはジャックのたてたいえ』を実演し、演者と



一緒に元気いっぱい朗読する子どもたちの声がブースに響きました。

### お知らせ

#### 運営会議と勉強会は第2土曜に変更

これまで第2日曜に運営会議と勉強会を開いてきましたが、2010年から運営会議は奇数月、勉強会は偶数月のそれぞれ第2土曜に変更します。ご参加をお持ちします。

〔運営会議〕 活動報告、イベントなどボランティア活動の企画。奇数月第2土曜：1/9、3/13、5/8、7/10、11/13

〔勉強会〕 「つくってみようラオス料理」「口承と文字をつなぐ～識字って何?」「すみからすみまでラオスを旅して」などを予定。

偶数月第2土曜：2/13、6/12、8/14、10/9、12/11  
詳細はホームページ等でお知らせします。

## 国内の活動・事務局より

2009年7月～10月

### <東京事務所の動き>

- 7月  
7/4 沖電気工業(株) ラオス語絵本貼りイベント  
7/5 ユニセフの集い 横浜開港資料館(清水・近藤)  
7/10 田園調布雙葉中学校 ボランティア体験実習(深山・学習院女子大学開発教育チーム)  
7/19 第4次中期計画中間評価会議  
7/21 Our-Planet ラジオ出演(赤井・深山)  
8月  
8/12-22 ラオス出張(猿田)  
8/21-23 麻布十番納涼まつり出店  
8/27 顕明館中学高等学校図書委員会訪問受入  
9月  
9/5 富士ゼロックス端数倶楽部 ラオスイベント  
9/8-13 スタディツアー実施  
9/8-11 新スタッフ秋元波 FASID PDM 研修参加(9/14から事務所勤務)  
9/19 2009年度通常総会開催  
10月  
10/3-4 グローバルフェスタ JAPAN2009 参加  
10/10-11 羽田空港国際化記念イベント 世界のお茶コーナー出店  
10/17 大田区地域力応援基金助成事業公開プレゼンテーション(深山・猿田・野口)  
10/28 日蓮宗祈り題目の日(深山)

### <ラオス事務所の動き>

- 7月  
7/15-17 アジア人権基金訪問受入  
7/16-23 ラオス事務所スタッフ、スラピー来日  
8月  
8/5,12,19,26 記事作成ワークショップ(スックパンサー)  
8/17-27 基礎的応急手当ハンドブック配付セミナー開催  
9月  
9/2-3,5,9 記事作成ワークショップ(スックパンサー)  
9/9-12 ラオスのこども スタディツアー受入  
9/10 在ラオス日本大使館でNGO連携無償資金協力事業調印式(森・ダラー)  
9/20 明治学院大学スタディツアー受入  
9/29 ボート祭りで図書販売  
10月  
10/5 ラオス着任(秋元)  
10/15-18 教員養成校教員対象セミナー<ルアンパンバン県>  
10/20-22 HA 教員対象図書活用セミナー<ルアンパンバン県>  
10/22-24 フランス語センターのブックフェスティバルで図書販売  
10/23 Japan NGO Meeting (JANM) に出席(秋元)  
10/30 INGO Meeting に出席(秋元)  
※HA=ハックアーン(学校図書室)、CCC=子ども文化センター、INGO=International NGO